



令和6年度 勇払中学校の教育推進の重点

【推進テーマ】生徒一人一人を主語にする学校づくり ～個にフォーカスする学校経営～

「胆振管内教育推進の重点」に基づく勇払中学校の6つの重点

重点1 資質・能力の向上

- 子どもが自己調整しながら学びを進め、自立した学習者となるための指導方法の確立・共有・活用
- 運動やスポーツに意欲的に取り組む態度の醸成
- 自己存在感や自己有用感を高める取組の充実

- 苫小牧市共通取組事項の徹底、苫小牧市共通取組場面の設定による授業改善→校内研修への位置付け（ICTの活用）
- 新体力テストの結果の活用及び体育スペシャリスト教員との連携による体育の授業改善
- 自主性・主体性・社会性の向上に資する道徳教育・特別活動（生徒間の心理的安全性、人権意識、言語環境の向上）
- 目指す生徒像（15歳の姿）の共有

重点2 特別支援教育の充実

- 障がいのある子どもの学びの場の保障
- 切れ目のない一貫した指導や支援体制の確立
- 管理職を含む全ての教員の特別支援教育に関する専門性の確保・向上

- 適切なアセスメントによる個々のニーズの把握及び学びの支援委員会を核とした支援体制の強化（保護者との密な連携）
- 小中連携事業の特別支援教育部会を核とした子ども理解及び指導に関する情報共有による適切な支援
- 特別支援教育に関する教職員研修
- 教科指導に自立活動を組み入れた授業の推進

重点3 生活・学習習慣の確立

- 家庭と連携した生活・学習習慣の確立に向けた取組の推進
- 望ましい電子メディアの利活用に向けた啓発活動の推進

- 家庭学習の提出
- AI型学習ドリルの有効活用
- 外部講師や資料を活用した情報モラル、情報リテラシー向上に関する指導、啓発
- あいさつする、時間を意識する、法やきまり・約束を守ることを基盤にメリハリある学校生活を送らせる

重点4 地域との連携・協働

- いぶり五大遺産などの地域素材を活用した「地学協働」の推進及び情報発信
- まちづくりにかかわる人材を育てるふるさと教育の推進

- 学校運営協議会、エリア会議（勇払小学校との連携）を基盤としたふるさと学習の推進（藍の栽培、藍染め、勇武津資料館見学、千人隊踊り）
- 地域の教育資源の活用（ウボボイ見学、勇払地区での職業体験、市の出前講座）
- 生徒の地域行事への参加促進（ボランティア活動）

重点5 教員の人材育成

- 学校の総合力を高めるための中・長期的かつ計画的な人材の育成
- 北海道における教員育成指標を活用した取組の推進
- 信頼される学校づくりに向けた不祥事根絶の取組の推進

- キャリアステージ、教員個々の個性に応じた研修受講助奨
- 若年及び経験の少ない教員の主任級への抜擢、学校経営参画
- 管理職候補者への昇任試験受験の動機づけ
- 職員間の心理的安全性、同僚性向上に資する校務・職員室運営
- 服務規律に関する全体指導、個別面談による教職員事故の防止
- 目指す学校像、教師像の共有

重点6 働き方改革の推進

- 教育活動の質の向上を実感できる学校における働き方改革の推進
- 北海道アクション・プランに基づく学校、市町教育委員会と連携した取組の推進

- 学年担任制、部活動の複数担当制等のワークシェアの実現
- 在校時間の把握と関連付けた業務の効率化の推進（勤務時間内で完了できる計画と実践、学校のDX、CBT）
- 本校設置部活動の拠点校方式への移行（市教委、競技団体、中学校長会との連携）
- 進捗状況確認のための見直しの観点例、チェックリストの活用

学校における
重点達成
への鍵

組織的な取組による検証改善サイクルの確立



精選

徹底

継続

役割連携の強化

心理的安全性の確保

ゴールイメージの共有

エビデンスの活用

短期サイクルの創出

勇払中学校のキー

役割連携の強化

各種調査やアンケートによる現状把握を確実にを行い、生徒にとっての最善策を全職員で模索する。その際、職員個々の経験や強みを大切にしながら、教育活動の成果・課題を明らかにし学校改善を推進する。